

「孫と学ぶ学校英語」はいかが？

2年前、本欄に同趣旨の文を掲載しましたが、状況が更に進展してきたので再度このテーマについて提起したいと思います。私は現在、地元市が主催する高齢者向けの英会話教室の講師を他の何人かと務めています。教室には「入門」と「初級」があり、受講生は65歳以上の男女ですが「東京オリンピックの時には少しでも英語を話したい」「海外旅行に役立てたい」とか、また異文化を学ぶことを楽しんでいる様子が伺えます。

「入門」コースの教材には、市の中学校で使っている「TOTAL ENGLISH」の1年生用を使っています。実は、私自身は地元の中学校でも、英語の授業のお手伝いをしていますが、60年前の中学生だったときのテキスト「JACK AND BETTY」に比べると比較にならないくらい良くてきています。

訳読のみでなく文法から会話、英語の歌までとても立体的に編集されている。しかも、扱っている内容が時代に即したテーマで、生徒にとっても楽しい話題が多いのです。1年生の教科書の最後の項では、「ジョーイの好きな女の子はだあれ？」という男の子の淡い恋に似た教材まで登場しているのです。昔は考えも及ばなかった。生徒たちには「皆さんのお爺ちゃん、お婆ちゃんにあたる人たちも一生懸命に勉強しているよ。これから日本はどうしても英語が必要になってくる。記憶力のよい若い皆さんはいくらでも伸びていく。頑張っていこうよ」なんて。



一方、大人（シニア）の教室では、半世紀以上も前に習った文法のおさらいをしながら、オリンピックや海外旅行での会話だけでなく「孫の英語の勉強も見せてあげられるように頑張りましょう」と呼びかけています。受講生は孫がちょうど小学生から中学生ほどになるケースが多い。小学校の英語が今度は正式教科となろうとしています。子供を持つ家庭ではいろんな思いをしている保護者もいるのではないかな。英語学校や塾はお金がかかる。仕事で多忙を極める父親。塾の費用を稼ぐために母親はパートに出ていて子供の面倒を見ている時間がない（この社会的な矛盾！）。



そこで提案したいのが祖父母の出番です。教科書の内容は中学校レベルまでだったら、勉強をし直せばなんとか教えられる人も多いと思うのです。昔とった杵柄で孫の面倒をみる。「お爺ちゃん、ここ教えて！」「英語ができるお婆ちゃんなんてスゴイ！」なんて孫から頼りにされたら本当にスゴイ。家庭内での株もグッと上がるのではないのでしょうか。「孫に教える」なんておこがましければ「孫と学ぶ学校英語」。自身の脳トレにもなり一挙両得です。もしこれが実現すれば、高額な塾の費用でアップアップしている全国の家庭に応援の一石を投じることができるかもしれない、なんて期待もあるのです。

実は数年前、所属するシルバー人材センターで教員免許を持っている人が中心になって、街中よりはるかに安い授業料で塾を立ち上げよう、と試みました。でもせっかくの企画も「子供たちの安全をどう確保するか」といった点で挫折した経過があります。家庭で祖父母がその塾代わりをするのだったらまったく問題はない。孫とのスキンシップも深まる。

“こんな取り組みが社会に広まっていけばよいのになあ！”と願い期待しているところなのですが……